

# 学報

vol. 62

AUGUST

2024

ANNUAL PUBLICATION

## 特集 座談会：聖隷が育むリーダーシップ

聖書のことば 部長・図書館長紹介 新任教員紹介 地域連携推進センター通信

授業紹介 国家試験 / 教員採用試験対策 私たちの国家試験合格ストーリー 専門学校通信

研究者への道 活躍する卒業生 リカレント教育のご案内 学修環境整備 満足度調査結果



聖隷クリストファー大学



聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校





キリスト教センター

聖書のことは

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」(マタイ十章十六節)

聖書の語る「隣人愛」を実践することは並大抵ではありません。イエス様は弟子たちを遣わす時「狼の群れに羊を送り込むようなもの」と形容しました。一見すると残酷な話です。そしてもちろん「狼によって、あなたがたの挑戦は失敗に終わる」とは続きません。「蛇のように賢く、鳩のように素直になり」そして完遂せよ、と続くのです。「蛇のような賢さ」というのは、一般的なキリスト教のイメージには無いかもしれません。しかしイエス様は「鳩のような素直さ」と同時に「蛇のような賢さも持ちなさい」と命じます。この世界で善い業を行うには、愚かであってはならないのです。警察が犯罪者よりも愚かでは困ります。そして当然歪んだ「賢さ」もイエス様は否定されます。それゆえに「鳩のように素直になりなさい」なのです。賢く、しか

も純粹に善や愛を追い求める姿勢を忘れてはならないのです。この「賢さ」と「素直さ」の両方の性質が、一人の人格の中で融合している事が大切です。それは可能であり、祈り求めるべき事柄です。医療科学の知見や技術を修め、医療業界や科学の発展を願う先々を見通して深謀遠慮を巡らす事(賢くあれ)と、目の前の病氣や怪我で苦しんでいる人をなんとかして助けたいという単純素朴な思い(素直さ)とは、決して矛盾しません。この「蛇のように賢く、鳩のように素直に」なる事が可能である時、「狼」に表象される一見超えられないように見える困難や障壁を越えて、力強い隣人愛の働きを実践できるのです。

聖隷学園宗教部主任 仲義之

学長挨拶

大学のあるべき姿



聖隷クリストファー大学  
学長 大城昌平

平素より、本学の教育研究並びに大学運営にご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また昨年度も、父母等保証人の皆様には満足度調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。お陰様で高い満足度の結果を得ることができたとともに、大学運営や教育の改善・向上に向けた貴重なご意見も頂戴しました。それらに真摯に取り組み、皆様とともにより良い大学を創っていくことが本学のあるべき姿です。

また、昨年度も就職率一〇〇%を継続できました。卒業生・修生一人ひとりが、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を人間形成の基盤として、教養と専門的知識・技能を身につけ、それぞれの就職先で信頼され、社会に貢献することが本学のあるべき姿です。

加えて、卒業生が卒業後も学びを続け、豊かな人生を送ることも私たちのあるべき姿です。現在、大学院の高度人材育成を進展させ、キャリア支援を行っています。看護学研究科では今年度、プライマリケア看護学領域を開設し、診療看護師(Nurse Practitioner)の養成を始めました。またリハビリテーション科学研究科では、二〇二五年度に高度実践リハビリテーションコースを開設します。そして社会福祉学研究科では、二〇二六年度に公認心理師課程を開設予定です。

これからも、大学のあるべき姿を探求し、皆様とともに発展する大学でありたいと思っています。皆様の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

公開講座 2024

申込受付中 どなたでも参加できます。(無料)

聖隷クリストファー大学では、「地域と歩む」をキーワードに、地域との共同事業・研究や専門職研修・市民公開講座を実施し、また地域に開かれた相談窓口となり、地域の保健医療福祉・教育の更なる質の向上と課題解決のために積極的に活動しています。2024年度は、7つのテーマで公開講座を開催いたします。

- 第2回 9月7日(土) おいしい食事をいつまでも!!「健口体操」で肺炎にならない身体づくり  
講師:柴本 勇(リハビリテーション学部 教授)
- 第3回 10月5日(土) 病気や障がいを抱える兄弟姉妹がいる「きょうだい」さんの気持ちを理解しよう!  
講師:福田 俊子(社会福祉学部 教授)
- 第4回 11月30日(土) こどもたちのハッピーライフのために  
講師:伊藤 信寿(リハビリテーション学部 教授)
- 第5回 2月8日(土) がんは他人事?いえいえ、自分事です!  
講師:氏原 恵子(看護学部 助教)
- 第6回 3月1日(土) “伝えたい”を叶える ~目と目で伝わるこの想い~  
講師:河野 貴大(看護学部 助教)
- 第7回 3月29日(土) 気になる子ども育つ!こどもにあった運動と生活を見つけよう!  
講師:和久田 佳代(国際教育学部 教授)

【会場】聖隷クリストファー大学 1号館7階 【時間】13:30開演(13:00~受付)  
【お申込み】ウェブフォーム <https://www.seirei.ac.jp/information/20240415a01/>  
電話 053-439-1400 FAX 053-439-1406(様式はHP掲載)  
【後援】社会福祉法人 聖隷福祉事業団、浜松いわた信用金庫、浜松市



終了講座 第1回 6月15日(土)「得意」と「苦手」の心理学 講師:内山 敏(国際教育学部 准教授) ◎たくさんのご来場ありがとうございました。



# 聖隷が育む リーダーシップ



上村敏正

聖隷クリストファー中・高等学校校長  
聖隷クリストファー高等学校 野球部監督

県立高校教諭を経て、2017年4月から聖隷クリストファー中・高等学校副校長  
2020年 聖隷クリストファー中・高等学校校長  
野球指導に関する実績：監督として甲子園出場多数



太田雅子

聖隷クリストファー小学校校長  
聖隷クリストファー大学  
国際教育学部学部長

2011年 聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園総園長、聖隷クリストファー大学社会福祉学部こども教育福祉学科学科長  
2022年 聖隷クリストファー小学校校長  
2023年 聖隷クリストファー大学国際教育学部学部長  
聖隷クリストファー小学校：国際バカロレア教育認定校



榎原理恵

聖隷クリストファー大学 大学院  
看護学研究科長 看護学部教授

看護分野におけるサーバントリーダーシップの研究者  
「看護管理者がサーバントリーダーシップを獲得するための支援モデル」を開発  
「看護組織のサーバントリーダーシップ研究会」を組織し、各地の病院で、研修会を主宰  
聖隷クリストファー大学大学院では、「看護管理学特論」などの授業を担当



# 聖隷が育む リーダーシップ

スポーツ、教育、看護。それぞれ異なる分野で、また教育という同じ分野でリーダーシップを発揮してきた3人の先生方に、リーダーシップの本質、聖隷ならではの育み方などについてお話しいただきました。

三人が考えるリーダー像、  
求められる力とは

「リーダーとは、どのような人物のことでしょうか。」

太田 まずは私から、聖隷グループという共同体を前提としたリーダーシップというお話をしたと思います。聖隷はキリスト教精神に基づき共同体なので、神が与えているビジョンが何であるかを探り、発見して、それを共同体のメンバーが共通理解できるように指し示すこと。未来図とかビジョンですね。それぞれのメンバーが持っている能力や役割を発揮できるように、それも一人一人ではなく、チームとして協力して一つの方向に進むことができるように、サポートしていくこと。それはある意味、人間にとって何が本当に必要で大事なものをかを検証していく、リーダーはそういう役割を担っているんじゃないかと思えます。

上村 先生は、どう思われますか。

上村 太田先生が言ってくくださったような、キリスト教主義の学校として、神様から頂いた命を社会のために、人のために役立てましょうということ、今年の中学高校が目指す

トリーダーシップの専門家です。いらっしゃいますか。

榎原 私がサーバントリーダーシップに出会ったきっかけは、看護師長さんたちに対して、リーダーシップを発揮できているかという自己評価の調査をさせてもらった時に、三分の一程度の人がリーダーシップを発揮できていないという結果を得たことでした。看護師長さんの三分の二が、適切なリーダーシップを発揮できていない状況を変えたいと思っただけです。では、どうすればいいか。それを模索し、いろいろなリーダーシップ論を読み漁った中で、一番納得できたのが、このサーバントリーダーシップという考え方だったんです。これなら看護師長さんたちが今実践していることを、肯定感を持ってスタッフに伝えることができるだろうし、医療が複雑化・高度化する中で、役割がどんどん拡大する看護師に自分たちが何をやるんだというのをきちんと伝えられると考えました。先ほどお二人が言われたことが、正にサーバントリーダーシップに当てはまる内容でした。社会に対して貢献できない組織は存続できないので、自分たちの組織が目指すべきところ、自分たちがどの役



# 聖隷が育む リーダーシップ



割を担っていくのかを明確にする  
とが必要です。それを人々に伝える  
時、スタッフに伝える時に、言いっ  
ぱなしではダメです。自分が言いた  
いことだけ言っても伝わらないの  
で、相手に伝わる伝え方で伝えるこ  
とが重要です。また、スタッフを信  
頼できないとリーダーシップを発揮  
できないと私は思っているのです、そ  
こがなかなか難しいですが、スタッ  
フを信頼してほしいし、スタッフか  
ら信頼される人になってほしいと  
いうことは、看護師長さんや看護管  
理者の人たちに願いを込めて、いろ  
いろな場所でお話をさせてもらって  
います。

## リーダーシップを育み、 伸ばす環境づくり

リーダーシップは生まれ持った資  
質でしょうか、育むものでしょうか。

上村 私の場合は、小さい頃から何  
でもあなたが決めなさいっていうこ  
とが多かったです。長男で、父が  
早くに亡くなったので。幼い頃から  
そういう風に育てられました。私に  
リーダーシップがあるとすれば、生  
まれつきというより、その環境が大  
きかったと思います。教員になった

のは野球の指導がしたいという理由  
で、二十六歳の時に母校の監督に  
なって、そこからその年、次の年、  
次の年と、五年間で四回甲子園に出  
たんです。周りの期待も大きくなっ  
て、いやだなと思うこともありまし  
たが、自分で考えて人を引っ張る力  
はあの頃鍛えられたのだと思いま  
す。

太田 ちょっと上村先生と似てると  
は思うんですけども、リーダーの  
キーワードの一つは『自分』だと思  
います。自分で選んで、行動するこ  
とが許されないとダメだと思っ  
ますよ。受け身で、これをやりな  
さって言われてやるのではなくて、  
そういう環境づくりの一環として、  
小学校では国際バカロレアの教育が  
始まっています。国際バカロレアに  
は目指す十の学習者像があるのです  
が、最終的には世界で活躍する、リー  
ダーシップをとれる人になっていく  
ために必要な力が示されています。  
その中に振り返りのできる人とい  
うのがあって、自分の行動の結果を冷  
静に振り返りながら、特に失敗した  
場合には、次はどうしたら良いかを  
考え成長できる環境を整えてあげる  
ことを私たちは意識しています。や  
はりリーダーシップは、積み上げて

と思っています。ただ、管理者にな  
りたくないという看護師さんが多い  
ことも事実で、そこがまた難しいと  
ころでもあります。  
太田 リーダーシップというと、管  
理者とかキャプテンなど選ばれた人  
の能力みたいなイメージがあります  
が、誰もがそれぞれの立場でリー  
ダーシップを発揮できるということ  
ですね。  
榎原 はい、『サーバントリーダー  
シップ』の著者ロバート・グリーン  
リーフは、誰でもリーダーシップを

いくものだと思うので。失敗しても  
非難されたり、罪悪感を覚えたりせ  
ずに済む環境や雰囲気があれば、何  
度もトライもできます。そうすると、  
自分で決めたことに責任を持ち、次  
に進むためにはどうしたらよいか  
を考え行動できる子に育ちます。医  
療の現場では多様な方々が活躍され  
ていますが、榎原先生は誰もがリー  
ダーになり得るとお考えですか。

榎原 なり得るものだと私は考えて  
います。組織を動かすリーダーは、  
やっぱり役割があるとかそういう部  
分が重要にはなると思います。そ  
の一方で医療の現場では、看護師一  
人一人が他職種チームの中でリー  
ダーシップを発揮しているはずで  
す。職業として看護師を選ぶ人は、  
患者さんの役に立ちたいとか、何と  
かしたいという思いがあって、元々  
サーバントの資質を持っている人が  
多いんですね。その人たちが患者さ  
んのためにどう動くのかを考えた時  
に、あらゆることを患者ファースト  
で考えていく。環境調整もそうで  
すし、医師との対話もしながら、患者  
さんにとって何がいい治療なのかと  
いう部分は、看護師たち自ら発信し  
ているところがあるので、看護師は  
リーダーシップを発揮できる職種だ

発揮できると明言しています。た  
だ、素地は必要だとは言っているん  
です。それは向上心があること。多  
分そこが一番必要なんだろうと思  
います。また同様に、人から信頼され  
ることも必要だと思えます。そうい  
う人であれば、誰でもリーダーシッ  
プを発揮することはできると考えて  
います。ただ、大きな集団を導いて  
いくとか、甲子園に行くとかのリー  
ダーシップとは、またちょっと別か  
もしれないなっていう気はします  
が。

## 経験や学びを積み重ね築く、 圧倒的な信頼と知識

— 小学校、中学高校、大学。各年代  
で身に付けたいリーダーシップはあ  
りますか。

太田 今のクリストファー小学校  
は、一人一人の違いを認め合った上  
で、自分を発揮していこうという  
部分に力を入れています。個別最適  
化。それぞれが好きなこと得意なこ  
とを伸ばして、成長し高め合える環  
境づくりが大切だと考えています。  
あとはコミュニケーション。きちん  
と自分の考えや思いを適切に伝える  
力も、小学校時代に育む必要がある



と思います。他者との比較ではなく、  
まずは自分のエージェンシーを発揮  
すること。そして多様な経験や人と  
の関わり合いを重ねる中で、それぞ  
れにリーダーシップが育まれていく  
はずです。  
上村 先ほど榎原先生のお話しにも  
出てきましたが、私たちが野球の中  
で一番大事にしてるのは信頼なん  
です。私がどれだけ偉そうなことを  
言っても、選手が信頼してついてこ  
なかつたら、やっぱりチームは勝て  
ないんです。野球はサインスポーツ  
だから、私が出すサインに納得でき  
ないと。同じ意味で、選手全員の間  
にも信頼関係がないと成り立たな  
い。それは普段の練習や生活から





## 聖隷が育む リーダーシップ

作っていくもので、疲れた時に鼓舞する人、困っている人を引っ張っていく人、叱ってくれる人、そうしたことの中で信頼関係が築かれるし、それができる人は全員リーダーです。これは中学高校どちらの生徒にも求めていることです。幸いなことに、聖隷には隣人愛という大きな柱がある。みんなでそこに向かっていけば、信頼も得られるし、それぞれのリーダーシップも発揮できるはずです。大学はどうでしょうか。

**櫻原** 本学は専門職者を育成する大学なので、高校までの教育と、またガラッと変わると思います。それぞれが専門職を選択してきた学生たちにとって必要なことは、まず専門知識なんです。専門職として力を発揮する、リーダーシップを発揮する場面では、知識ベースがないと戦えません。人のこと、体のこと、疾患のこと、看護という学問に関しても、本気で学習してもらわないことには、リーダーシップは発揮できません。人って、させられたことは、すぐ忘れてしまうんです。自分が能動的にしたことに関しては理解も深まります。今アクティブラーニングという言葉が、すごく言われていますけど、やっぱり能動的に学ぶという

時に、自ら発信するとか、自ら学びたいと思ってもらわないと知識は定着していかないので、そういうことを促しています。

### 専門的な意見を交わして、 見えてきた共通点

—それぞれの話を聞いて、気付いたことなどを教えてください。

**太田** どの年代でも、どの領域でも、共通していることは多いと確信しました。特に聖隷の場合は大きなゴールがあるというか、やはり社会に貢献していく、この世界を変革していくっていう大きなゴールを持っているので、そのために、それをみんなが共通して意識できるように、焦点が向くように働きかけていくことが、リーダーの一つの役割なのかなと思います。私は、大学の教員でもあるんですけども、教育や保育に関して研究する中で、子供たちを成長させる教師としてのリーダーシップには、四つの条件があると考えています。一つは、温かさ。人としての温かさ、思いやりを持っていること。二つ目はコミュニケーション。相手が何を考えているのかを理解し、こちらの思いも伝えられる力。

三つ目はデマンド。要求ですね。人が成長するには、放っておくんじゃないで、こうやってほしい、こういう姿になってほしいと要求することもあります。四つ目がコントロール。してはいけないことをストップさせる力です。この四つが教育におけるリーダーシップ、教師としてのリーダーシップということですが、実は教育現場以外に様々なところで共通しているんじゃないかなと思います。

**上村** 私たちは何を作ろうとしているのかって、今日、話を聞きながら改めて考えていました。本校の教員には、勉強ができる生徒ではなく、その勉強を活かせる人間を育ててほしいと考えています。運動ができれば、勉強できなくてもいいよ、ってことは全くなくて、やりたいことも、勉強も、とことんやる。何のためにやるのって言ったら、やっぱり世の中に貢献できるような人間になってほしいから。後は、主体性を持てる人になってほしいですね。自主性と主体性の違いを、しっかり理解してほしい。例えば自主練習は、これをやっておきなさい、スイング五百本やりなさいっていう練習なんです

よ。主体的な練習っていうのは、誰かに言われなくても自分から考えてやる練習のこと。結局、自分から勉強した人、自分から練習した人が伸びるし、信頼も勝ち取るんです。

**櫻原** 私は、このサーバントリーダーシップに行き着いた時に、提唱している人がとても敬虔なクリスチャンということもあって、聖隷でこれを進めていくことには意味があるんだと思っていました。今日、太田先生から聖隷の根幹のところをお聞きしたので、やっぱり通じるところがあると感じています。また、上村先生の人を育てるという視点で、本気で生徒に関わってくださいっていう様子を知り、やっぱり人間力を高めていくことは絶対的に必要なんだと再確認できました。また、自主的と主体的の違いは、正に学生時代に知っておくべきことで、私も今日そういう風に使分けなければいけなかったって教えていただきました。リーダーシップとはちょっと違うかもしれませんが、でも、主体的に行動できる学生は、きつとリーダーシップも発揮できるようになると思うので、そんな学生に育ってくれるといいなと思います。本日は貴重なお話し



ありがとうございました。  
上村・太田 ありがとうございます。





# 2024年度 部長・図書館長 紹介

看護学部 教授  
山村 江美子



## 就職部長

保健・医療・福祉の専門職を目指す学部生の皆さん・専門学校生の皆さんは、大学・専門学校において基礎教育と専門知識を学び、国家資格を取得して、対人援助職として就職をします。しかし、基礎学力と専門知識だけでは、社会で活躍し仕事をしていくことは困難を極めます。社会人として仕事をしていくためには、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」社会人基礎力が必要となります。在学中に、社会人基礎力を養い、地域貢献ができる社会人を目指しましょう。

現在、社会人基礎力の評価ツールの運用に向けた準備を行っています。自身の社会人基礎力を、評価ツールを通して可視化してみましょ。キャリア支援センターと就職部は、学生の皆さんの自己実現に向けて、サポートをいたします。ぜひご活用ください。

リハビリテーション学部 教授  
津森 伸一



## 教務部長

現代社会における課題は複雑化・多様化し、文部科学省や産業界は従来の専門分野の枠を超えた文理複眼的な思考のできる人材の育成を求めています。一方で、大学全入時代の到来、入学試験制度の変更等により、学生の学力も多様化しています。基礎学力の低下から専門分野の学習が困難になることも少なくなく、適切な対応が喫緊の課題となっております。私は理数系のリメディアル教育に係る研究を長年行ってきました。そこで獲得した知見を活かし、入学前教育や初年次生対象の共通科目教育といった基礎的な教育内容の再検討に取り組みたいと考えています。現代は単なる知識の獲得に止まらず、他者と協働しながら積極的に問題解決に取り組む汎用的なスキルの養成が求められています。この観点から本学で展開している教育内容を精査し、既設科目の見直しや新設に係る検討を行っていききたいと思います。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国際教育学部 教授  
飯田 真也



## 図書館長

新たな取り組みとして二点紹介します。昨年十一月に図書館学生スタッフ制度を立ち上げました。図書館事業とタイアップした取り組みを学生が考え、計画し、実施しています。四月には「図書館報」に学生スタッフからのお勧め本を紹介したり、初年次教育の一貫として「症例別！課題レポートの処方箋」をホームページに掲載したりしました。五月には、新規学生スタッフ十名が加わり、意欲に満ちた学生十九名と職員員が一丸となって毎月の図書フェア等を推進しています。

昨年、国際教育学部が新設されました。既存の学部同様に、図書環境の充実を図ることが課題となりました。そこで、小・中学校全教科・全教科書を配置することで、教育関係で言えば教科書センターの機能を整備しました。今後、国際教育学部にふさわしく外国の小学校教科書を配置していきます。外国の教科書まで活用可としている図書館は稀ですので、地域の教育研究の拠点としても貢献できると思います。

社会福祉学部 教授  
福田 俊子



## 学生部長

法的には十八歳が成人と定められましたが、「高校四年生」との表現がふさわしい「初々しさ」をまとって、一年生は本学へ入学してきます。その後、対人援助職独特の「自己を厳しく律すること」が要請される専門職教育を受けながら、特に生活上の困難を抱える患者さんや利用者の方々と直接かかわる実習を通して、学生は「自己」の未熟さ、臨床や現場が抱える矛盾と出会い、悩むことが多くなります。また、高校生活より格段に拡がる学内外における人間関係に関する悩みも小さくはありません。しかし学生にとって、悩むことは苦しい体験である一方、人として大きく成長する機会になることも事実です。

悩みを成長につなげるには、「他者」を上手に頼れる自分」を育てることが必要です。「他者」には友人はもちろんのこと、教員や学内にある各種相談室の相談員も含まれます。学生たちがこれらを積極的に活用し、充実した学生生活を送ってくれることを切に願います。





# 地域連携推進センター通信

## 【浜松市と大学との連携事業～大学生による講座】

聖隷クリストファー大学は、浜松市が企画・推進する事業「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」に参画しています。この事業は、市民と大学生が生涯学習を通じて自分の成長や能力の向上を図り、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に行われています。2024年度は下記の7講座11回を実施中です。



講座名	対象	担当学科	会場
命を救える人になろう！—あなたにもできる心肺蘇生法と AED の使用—	高校生(1～3年生)	看護学科	蒲協働センター
認知症予防講座 ～ゲームやクイズで楽しく認知症予防をしてみませんか～	高齢者およびご家族	看護学科	三方原協働センター
英語を楽しもう - Let's enjoy English!	幼稚園児～小学2年生	こども教育学科 こども教育福祉学科	中瀬協働センター
足腰を鍛えて健やかな生活を送りましょう	高齢者	理学療法学科	引佐支所、東部協働センター
自分の体の使い方を知ろう ～走力・体力アップのヒント～	小学生(1～6年生)	理学療法学科	三ヶ日支所、三方原協働センター 和地協働センター
認知症予防 “海馬を鍛えよう!!”	どなたでも	作業療法学科	竜川ふれあいセンター、下阿多古ふれあいセンター、熊小学校、曳馬協働センター
男女共同参画社会のパートナーシップは日々の生活から	カップル、お一人でも可	助産学専攻科	蒲協働センター

※講座名や対象は変更になる場合があります。

## 【2023 年度 地域連携事業報告】

本学では、「保健医療福祉分野に係る全ての人たちとの共同事業・研究」を推進するために、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を募集し、毎年採択しています。



課題名	代表者(職位)	課題名	代表者(職位)
領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業～神経難病療養者が住みやすい浜松を創る～	河野 貴大(助教)	こどもの感性と創造性を育む五感をとおした美的経験によるアートプログラム開発Ⅱ	鈴木 光男(教授)
病気や障がいがある人の「きょうだい」のサポート事業～シブリングサポーターの養成～	福田 俊子(教授)	成長期のサッカー選手における外傷・障害予防事業	根地嶋 誠(教授)
子どもの権利擁護に関する研究～意見表明等支援(アドボカシー)に向けて～	藤田 美枝子(教授)	作業に焦点を当てた自分史が高齢者に与える効果の質的分析	鈴木 達也(准教授)
		かけがわ健活プロジェクト～茶やっど健康測定～	柴本 勇(教授)

地域連携推進センター長  
教授 金原 一宏



ご挨拶  
地域連携推進センターは、本学の「保健医療福祉および教育・保育」の特色を活かし、地域振興に貢献するため、自治体や地域との連携を行っています。  
二〇二四年度は、①地域連携事業活動(本センターから講師派遣を行う等)、②公開講座を年間七回の実施、③浜松市と大学との連携事業「大学生による講座」の実施(協働センター等による講座を実施)を行っています。これらの活動を通して、地域に開かれた相談窓口となり課題解決につながるよう、積極的に取り組んでいきます。

## 新任教員紹介



看護学部  
看護学科  
教授 水田 明子

公衆衛生看護学領域教授を拝命いたしました。隣人愛を基盤にした看護人材育成に携わる機会をいただき、学生と共に教育者として成長し続けたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部  
看護学科  
教授 和田 由樹

慢性疾患を持つ人のセルフマネジメントを支える看護について、実践・研究をしています。看護職者としての自覚と誇りを持ち、人々がその人らしい人生を歩める看護を探求し続けたいと考えています。



国際教育学部  
こども教育学科  
教授 竹本 石樹

教育現場は多くの課題を抱えており、この対応には教師の質の向上が欠かせません。私は困難を乗り越え、子どものためにベストを尽くせる教師の育成を行ってきたいと考えています。ご支援よろしくお願いいたします。



看護学部  
看護学科  
准教授 水島 史乃

専ら臨床で看護の仕事に携わってききましたが、看護師人生の後半に、本学大学院で学ぶことができました。専門職として学び続けるという先人の教えを胸に、これからは、学生の皆さんとともに学び続けたいと思います。



社会福祉学部  
社会福祉学科  
准教授 鈴木 文子

心理学は、病気の方から健康な方まで、幅広い人を対象としています。人々の健康に対する心理学的な理解と関わり方を、学生の皆さんと一緒に探求していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



社会福祉学部  
社会福祉学科  
准教授 仲 義之

キリスト教教育が専門で、最近の研究テーマは19世紀ドイツの教育学者ガウディヒの「人格Persönlichkeit」についてです。中・高での聖書科教師の経験を活かし、今後も「隣人愛」を真摯に追求していきたいと思っています。



看護学部  
看護学科  
助教 長山 有香理

慢性看護学の演習や臨地実習を担当します。学生の皆さんと一緒に看護を学べることを楽しみにしています。そして、学生の皆さんが自らの力で学びを深め成長していけるようにサポートさせていただきます。よろしくお願いいたします。



看護学部  
看護学科  
助教 橋積 亜希子

社会構造は多様化・複雑化し、看護の在り方も変化が求められていると実感しています。皆さんが、看護職になったその先のキャリアにも目を向けながら楽しく看護を学ぶことができるよう努めてまいります。



国際教育学部  
こども教育学科  
助教 渡邊 拓真

これまで幼稚園教諭をしておりました。子どもたちとの生活の中で得られた学びを学生の皆さんと共有し、子どもとかわる仕事の楽しさや面白さを伝えられるよう努めます。これからよろしくお願いいたします。



# リーダーシップを育む

## 聖隷クリストファー大学の実践例

統合実習 | 看護学部・成人急性期看護学領域



統合実習では、病院実習に入る前に、学内演習としてグループワークで事前シミュレーションを行っている。写真は、そのグループワーク・全体発表・報告シミュレーションの様子。

—この実習の特徴について教えてください。

統合実習は、本学の看護学部生が四年生の七月に行う最後の実習です。学生はこれまでに基礎実習に始まり、急性期（外科）や慢性期（内科）、小児科や精神科などの領域別実習を乗り越えてきますが、この統合実習は学生自ら一つの分野を選択し、将来を見据えて主体的に参加するという特徴があります。

領域別実習までは、学生は一人の患者様を担当し、その人に付き添い、どのような治療を受け、回復の道を歩むかをそばで見守りつつ、看護に当たります。これに対し、統合実習（急性期）では、一歩実際の看護師に近づいて、複数の患者様を受け持ちます。複数の患者様を受け持つことで、学生は否応無くより早い判断、看護実践が求められ、医療チームの中で働く看護師の役割を考えることとなります。

—この実習の中で、学生はどのようなことを経験するのでしょうか。

統合実習では、学生は病棟の看護チームの一員として、実際に患者様の看護に責任を持つことのシミュレーション

を行う事になります。看護師国家資格を持たない学生は、点滴や投薬、手術後の重症患者様の処置などはできません。しかし、統合実習では「担当看護師として」という前提で、複数の患者様に必要な投薬や処置などをすべて把握し、看護師として実際に責任を持って働くとは、ということを考えます。刻一刻と状態が変わる患者様、それも複数の患者様に対して、何をどのような順番で行うか、組み立てることは言葉以上に難しいものです。たとえば、Aさんを車いすで検査にお送りしようとしていたら、Bさんが痛みを訴えてナースコールであなたを呼んでいますよ、そんな状況がやってくる訳で、学生は必死で優先順位や対応策を考えることとなります。

—「到達目標」に「メンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる」とありますが、看護職を目指す学生が身に付けてほしいリーダーシップとはどのようなものですか。

リーダーシップの第一歩は「チームのよきメンバーであること」であり、この実習ではそれを体験することになります。限り手と口を出すことを控えて見守ります。もちろんサポートが必要になれば対応しますが、この実習は脱皮の第一歩なのです。学生が看護師チームの一員となるべく自ら考え行動し、積極性を発揮できるように、後ろから見守るアプローチで関わっています。

—この実習後、学生たちの行動や考え方にどんな変化がみられると感じますか。もしありましたらその変化について具体的に教えてください。

統合実習、特に急性期領域で統合実習を体験した学生さんは、臨床の大変さ、要求されることの多さを体験しますが、それ以上に自分が常に守られ気遣われる存在ではなく、役割を担って他者と協力し患者様を看護する立場である事を肌で感じるようになります。そのため、周囲に対する一段階広い視野を獲得し、芽生えた責任感を元に自らに対する客観的位置づけが行えるようになると感じます。つまり、人間として成長し、より思いやりがある頼りがいのある人へと変わっていくわけで、私たちはその成長を驚きと感動をもって見つめています。

ります。医療チームのメンバーとして働く第一歩は「情報共有」です。看護は二十四時間行われるので、担当患者様の看護は一人ではなくチームで行われます。その際患者様の情報共有の大事さはすぐ理解できますが、実は同じくらい重要なのは、「私」についての情報共有、自分に何ができて、何ができないのかを自覚しチームの皆に知ってもらうこと、その上で、今、自分が何をしているのか、をチームと共有することです。このような情報共有こそがチームの一員としての責任を果たすことであり、チームの中で自分の役割を意識することが、リーダーシップの最初の段階です。統合実習において、学生は自分が看護チームの一員であることを体験し、自分の役割と責任を考えていくこととなります。

—到達目標のために、先生方は意識的にどのようなアプローチをしているのでしょうか。教えてください。

学生が看護チームの一員として看護実践を行えるのは、臨床現場の全面的な協力があったことです。特に、急性期の統合実習を実施させて頂く







曾根 彩生 さん

看護学部看護学科  
2023年度卒業  
[取得資格]看護師、保健師  
[就職先]聖隷浜松病院

私は、国家試験半年前から勉強計画をたてながら国家試験対策を行いました。看護師と保健師の国家試験にダブル合格するためには、看護師のみの人よりも勉強時間が多く必要になりますが、集中力が切れてしまったときには、テレビを見たり、自分の好きなことをする時間を作りながらメリハリを意識して勉強していました。休憩中に母は、「いつも頑張っているからゆっくりしてね。いつでも味方だからね。」と私がリラックス出来るように励ましてくれました。温かく見守ってくれている家族の存在がとても励みになりました。

私たちの  
国家試験合格  
ストーリー  
国家試験に合格するために  
どのような勉強をしたのか、  
先輩方に語っていただきました。



中山 結愛 さん

リハビリテーション学部  
作業療法学科  
2023年度卒業  
[取得資格]作業療法士  
[就職先]北斗わかば病院

私は、過去問10年分を理解するために動画・イラスト・教科書を見たり、質問することを繰り返し、全選択肢が自分の言葉で説明できるようにしていました。少し考え方を変えるだけで理解が深まることを実感したため、一つの視点に捉われず様々な資料を使うことをお勧めします。また、友達と得意分野を教え合うことでお互いの理解力を高めていました。試験が近くなるにつれて焦りと不安でいっぱいでしたが、家族や友達、先生方からの励ましが何より力となりました。夢に向かって頑張る受験生にとって一番そばで支えとなる家族からの温かい言葉がけはきっと大きな力になると思います。



日比谷 直美 さん

社会福祉学部社会福祉学科  
2023年度卒業  
[取得資格]介護福祉士  
社会福祉士  
[就職先]和合愛光園

国試の勉強は、友達と大学の図書館や教室で行っていました。図書館では、個々に勉強を行い、教室ではお互いに問題の出し合いをしました。私は、模試で間違えた部分を解き直し、苦手な部分は繰り返し配信動画を見るなどしていました。個々での勉強も大切ですが、友達との問題の出し合いでは、記憶により定着し、試験当日にそれが生きていたと実感することができました。私は、模試で納得のいく結果を出せたことはありませんが、両親からは「大丈夫。」と本番当日も応援をしてくれたことで、落ち着いて取り組みました。そのため、温かく見守りつつ、応援をしてあげてください。

## 社会福祉学部こども教育福祉学科

### 2024年度教員採用試験結果

4年次生20名の学生が受験し、一次試験合格者は18名、二次試験合格者は16名と、合格率(正規教員採用率)80パーセントを達成しました。

### 合格した自治体(教育委員会)等

- 東海 浜松市・静岡県
- 関東 東京都・神奈川県・横浜市
- 関西 神戸市
- 九州 長崎県・福岡市
- 私立小学校

# 国家試験/教員採用試験対策

1年次から4年次まで、独自の対策プログラムで徹底サポート。

## 看護学部

### WebClassの国試ログを活用した 個別相談・指導

看護学部では4年次生に対して国試対策委員会の教員がひとり約20名程度の学生を担当し、個別支援を行っています。その方法の一つとして、大学で導入をしている学習支援ツールであるWebClass内に「国試ログ」を作成し活用しています。学生はその国試ログに学修計画や、学内模試と業者模試の結果と振り返りを入力しています。教員は定期的に担当学生の国試ログを確認しながら、国試対策の進捗状況を把握し、ログ上に励ましのメッセージや学習方法のアドバイスを送り個別指導を行っています。模試の成績が伸び悩む学生に対しては個別面談を行ない、学生の状況に応じた個別相談・指導を行っています。

- 定期的なガイダンス
- 学内模試
- 全国業者模試
- 教員による勉強会
- 12月必修特訓
- 1月直前特訓
- 学生国試委員による有料講座
- 外部講師による有料講座
- 個別相談・指導
- 国試受験報告会

## リハビリテーション学部

### 低学年からの学力定着をサポート

リハビリテーション学部では学科ごとに国家試験対策を行っています。

各職種の国家試験は非常に広い範囲から出題されるため、低学年からの取組が重要となります。そこで、各学科では、低学年から定期試験後に学習範囲ごとに国家試験対策テストを実施し、学力の定着を高める取り組みを行っています。低学年からの意識づけは能動的な学習活動への参加を促し、学習効果を高めます。そして、4年次生の長期実習終了後に本格的な対策に入ります。教員も、適宜、指導・助言を行いながら、学生・教員が一丸となり国家試験合格率100%を目指して取り組んでいます。

- 低学年からの国家試験対策
- 模擬試験
- 外部講師/本学教員による対策講座
- グループ学習
- 個別指導/相談

## 社会福祉学部

### 繰り返し視聴できるWEB動画の配信を 始めました。

社会福祉学部の国試対策委員会は、2023年度から、繰り返し視聴できるWEB動画による国家試験対策講座の配信を始めました。WEB講座は、本学の学生に適したスケジュールで計画的に配信しており、講座とセットになっている小テストの実施状況と併せて担当教員による助言等を行っています。

また、8月以降、6回の模試を効果的なタイミングで実施し、自己採点の分析結果を即座にフィードバックしています。さらに例年、年末に実施している専門科目担当教員による対策講座は、学生の状況に適した講座(模試の解説や出題されやすいポイント解説など)になっており、「ラストスパートのモチベーションが高まった」など、学生からの評価が高い講座となっています。

- 定期的なガイダンス
- 卒業生による国試対策体験講座
- WEBによる有名講師の対策講座  
(標準講座・夏期講座・苦手科目講座・直前講座)
- 学内教員による対策講座
- 模擬試験および自己採点結果に基づく学内分析速報の共有
- 個別指導

## 国際教育学部 こども教育学科 社会福祉学部 こども教育福祉学科

### 教職センターを中心に、 充実した教員採用試験対策を実施

国際教育学部では、日々の授業を大切にしつつ、教育実践力を身に付け、教員採用試験の合格はもちろん、卒業後に教育現場で十二分に力を発揮するための支援を行っています。現在教員ニーズの高まりを受け、各自治体が試験時期の早期化や、3年次試験の導入を行っていることで、採用試験は多様かつ複雑化しています。しかし本学ではこれらの情報を教職センターで収集、情報発信を行うことで、スムーズな試験対策に繋がっています。また教職センターには元校長を始めとして教育現場の経験の豊富な教員が配置されていますので、日常的に相談や指導を行えるのも大きなメリットです。

- 教員採用ガイダンス
- 採用自治体別の面接等対策
- 低学年からの模擬試験
- 教育委員会主催講座参加
- 過去問題の収集・分析
- 個別指導/相談
- 出願書類添削
- 外部講師/本学教員による対策講座



## 就職・進学支援

### 2023 年度卒業者の就職・進学状況

2023 年度に卒業した 19 名の学生のうち、就職・進学希望者は 18 名でした。就職者は 16 名、進学者は 2 名で就職・進学率は 100%です。進学した 2 名は、いずれも聖隷クリストファー大学社会福祉学部社会福祉学科に進学（3 年次編入学）しました。

### 就職・進学支援プログラムについて

専門学校は入学から就職活動開始までの期間が短いことから、1 年次生の 5 月から就職などに関する支援プログラムを実施しています。

#### 【お問い合わせ先】

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校  
キャリア支援センター  
TEL:053-436-7233 FAX:053-437-6782  
E-mail:career@seirei.ac.jp

#### 【お知らせ】

専門学校に届く求人票の情報は、登録者に対して配信される「求人情報配信システム」によりお知らせしています。ご家族の皆様もご登録いただくことができますので、情報提供を希望される方は、大学ホームページ「就職・キャリア」(<https://www.seirei.ac.jp/career/>)の「求人情報配信システムへ登録」からご登録ください。

#### 【1年次生】

2024年5月	社会人になるための基礎講座
	社会人マナー講座
	スーツ着こなし講座
	メイクアップ講座 ※動画紹介
10月	2 年次生による就職活動報告会
11月	卒業生と在學生との懇談会
12月	履歴書の書き方、面接の受け方講座
	聖隷クリストファー大学社会福祉学部への編入学説明会
2025年3月	福祉系の法人・施設などを招いての説明会

#### 【2年次生】

内定を頂いた 2 年次生を対象とし、2 月に「就職内定後の心構え、社会人としての心構え」のプログラムを実施しています。

卒業生数 (名)	就職希望者数 (名)	進学希望者数 (名)	就職・進学者数 (名)	就職・進学率 (%)
19	16	2	18	100



入浴実習室でのひとコマ

## 専門学校通信

COLLEGE OF CARE WORK

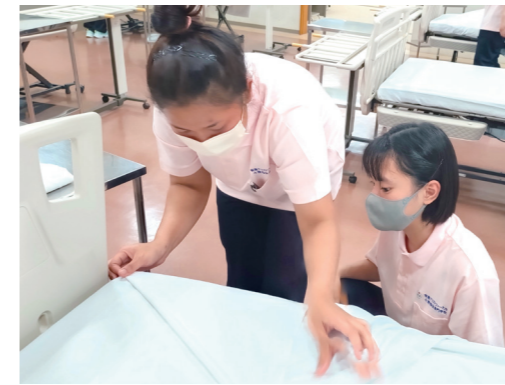
### TOPICS

## 専門学校トピックス

#### 「生活支援技術」

介護福祉士は日常生活を支援する専門職として、利用者の「顕在化している能力・潜在している能力」を引き出し尊重し少しでも自立できるように支援していくことが求められます。当該科目では、利用者の状態を観察、確認、支援のための根拠に基づいた知識と技術を習得していきます。

授業・演習では支援内容ごとの基本技術を学び、各実習施設では指導を受けながら実践を重ね、さらに異なる心身の状況に応じた生活支援技術を習得していきます。



#### 「合同ホームルーム」

二〇二四年度より、日本語支援・文化交流会・国家試験対策・スポーツ体験などを通して専門学校生間の交流や留学生支援を目的として教職員と共に実施しています。

日本語支援は一年次生を対象に学びを振り返り、国家試験対策は二年次生が介護福祉士国家試験合格を目指して取り組んでいます。文化交流会では、茶道部の在學生の協力のもと茶道の作法（抹茶の立て方・出し方・いただき方）を教えていただきました。日本の伝統的な文化に触れる貴重な体験となりました。



## 学生の

## とある一日

二年次生

太田朱音さん

専門学校の学校生活は毎日が忙しく、いつの間にか「一週間が終わっていた」と驚くときもありますが、楽しく充実した生活を送っています。

授業は講義を受け、事例を用いながらグループワークや個人で実践に近い形で取り組むことがあります。その際、多くの知識が必要となり、もう一度復習すべき部分が多くなることもあります。また、科目を超えて知識を合わせていくことで関連性が理解できるようになり、楽しく学ぶことができます。自宅で復習をして確実に知識として定着ができるよう、繰り返し勉強することが大切であると考え努力を続けています。

休み時間は、友人と楽しくリフレッシュできる時間となっています。私たちのクラスでは授業時の雰囲気とは違い、お互いが和気あいあいと過ごしています。一方でテストが近くなると一緒に勉強し、学びを高めあえる仲間でもあります。私は大変なことがあっても、クラスの仲間がいることで支え合いながら乗り切ることができています。



午後は眠くなってしまいう時間ですが、実習や国試のためにも集中して真剣に取り組んでいます。



お昼の時間は友達と一緒に学食や教室で食べたり、好きなことで盛り上がったりと楽しく過ごしています。



8時半から礼拝の時間があります。遠距離通学のため朝6時のバスに乗るように家を出ています。



# 研究者への道

リハビリテーション学部  
作業療法学科  
准教授  
藤田 さより



## だれもが生き生きと働けるために

私の主な研究テーマは「障害者の就労支援」です。「働くこと」は、自己実現や社会参加の場でもあり、人に経済的な満足だけでなく、人の人生に大きな意味を与えるものです。私自身社会人となり、多くの学びを得、たくさんの出会いがあり、そしてそれらは私自身を成長させ、また多くの喜びを得ることができました。作業療法は、人々にとって大切な作業や活動を通して人々の健康や幸福に貢献する役割を担っています。人の生活や人生に大きな意味を与える「働くこと」を支援することは作業療法士にとって、重要な使命であると感じています。

## 大学院への進学

就労支援を研究しようと思ったきっかけは、まだ私が精神科病院で入院された方への作業療法を行っていたころです。入院によるさまざまな治療やリハビリテーションを受け、元気に回復し、笑顔で退院していく患者様を見送る一方で、数か月後に再発し、再び入院となり戻ってくる患者様も少なくはありませんでした。理由は様々ですが、自立に向けて就職活動をしたものうまくいかず、調子を崩された方も何人かいました。生活の再建に向け、夢をもって

退院した患者様が、ひどく落ち込んだ姿となり、再び出会うことにやるせない気持ちでいっぱいでした。精神障害者の退院後の地域におけるサポートが不足していること、障害者のための就労支援体制が整っていない状況を変える必要があると痛感しました。

当時はまだ障害者総合支援法の成立前であり、現在のような障害者の就労支援体制は不十分な時代でした。特に精神障害者に対しては、偏見が根深く、他の障害と比較しても大幅に遅れていました。私に何ができるだろうかと考えたなかで、「何かの会社を立ち上げて、障害者の雇用をしてみたらどうだろう」と真剣に考えていました。そのためには病気のことや障害のこととは知っていても、会社経営のことなどは全くわからないので、「じゃあ経営学部に入ろうか」と夜間大学のパンフレットを取り寄せ、真面目に受験を考えていました。

そんな折、当時、勤務先へ指導にいられていた新宮尚人先生（後に大学院の指導教官、現リハビリテーション学部長）にそんな考えを相談したところ、「経営のことをゼロから学ぶより、作業療法を極めた方が近道だ」という、大学院に進学して研究してみたら？」と声を掛けていただきました。「そうか、そんな選択肢があるのか」と目からウロコが落ちる気分でした。

その半年後に大学院の入試を受験、無

害者の就労支援に関する予備的研究（当事者に対するニーズ調査の結果から）」とし、ようやく研究計画を書き上げ研究を開始できました。

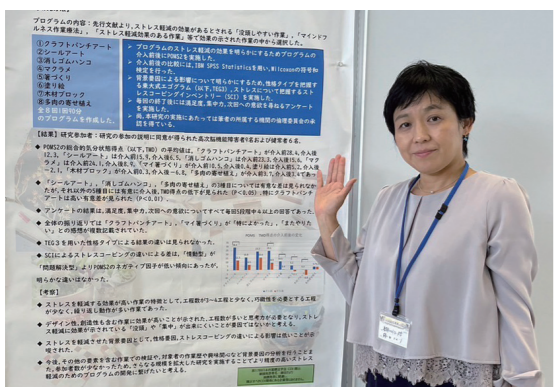
## 精神科デイケア利用者に対するニーズ調査

ニーズ調査は、精神科デイケアを利用される主に統合失調症の方に一人ひとり、私自身が作成した調査用紙を用いて、面接して行きました。週二回程度、名古屋市内の前任地でのデータ取りは体力的にも大変でしたが、多大なる協力を得て、五十三名の方に協力いただくことができました。

結果、そのほとんどの方が「働きたい」という強い思いを話されました。また同時に、過去の仕事上での辛い経験、働くことへの不安、働きたいのに働けない現状など、多くの不安や思いが語られました。調査研究でしたので、数値データを集計し、統計にかけ、提出期限までに何とか論文として提出でき、無事修士課程を修了することができました。

## そして博士課程へ

修士課程を無事修了できたことは、大きな喜びではありませんでしたが、一方でやり残した思いがありました。それは修士課程の研究は調査研究であったため、五十三名の方の就労への思いを聞き取ったにもかかわ



学会発表時の様子

らず、統計的手法でまとめたため、一人ひとりの声や思いを全て論文に記載することができなかつたこと、また具体的な就労支援には繋がられなかつたことです。研究に協力してくれた当事者の思いを無駄にしてはいけない、また精神障害者の就労支援が依然として進まない現状を少しでも変えたいから、博士課程への進学を決意しました。博士課程の研究は、当事者の思いをしっかり取り聞き取りたいという思いから、質的研究で、且つ就労を望む方を就労に繋げる有効な支援方法をつくりたいという思いから、介入研究という強い意思で研究計画作成に取りかかりました。しかしながら再び、研究方法に思い悩み、結局研究計画に一年半の歳月を要しました。ようやく研

究に取り掛かりはじめたものの、介入研究と質的研究に要する時間は想定以上に労力がかかり、研究の実施に一年を要しました。ようやくデータをとり終えたタイミングで妊娠がわかり、一旦、出産・育児のために休学しました。出産後、すぐに論文執筆にとりかかれると思っていたのですが、高齢での初産・育児は、体力的に思うようにはいかず、仕事に復帰するだけで精一杯でした。その後子供が3歳になるタイミングで復学を決断。育児との両立・指導教官の温かい指導、同僚・家族のサポートを受け、無事論文を書き上げました。修了時、入学から八年の歳月が経過していました。

## そして現在

博士課程での研究をベースに、現在も障害者の就労支援に関する研究を継続しています。修士課程卒業後に大学の同僚たちとNPO法人を立ち上げ、就労移行支援事業所の副理事長として現在も関わっています。障害者の方々に働ける場を・・・という研究を始めるきっかけとなった思いを、形は変わったものの実現でき、研究を継続してきたことで、障害者の就労支援に微力ながら貢献できたと思います。

現在は、「働くこと」の研究から発展し、作業療法士自身が、長く安心して、イキイキと働くためのワークライフバランスや

事合格し、二〇〇六年四月より、聖隷クリストファー大学大学院のリハビリテーション科学研究科の第一期生として入学させていただきました。同時に、本学のリハビリテーション学部作業療法専攻（現作業療法学科）の助手として採用いただき、臨床現場を離れ、教員としての仕事もスタートしました。

## 初めての研究

臨床経験は十年となりましたが、大学院の入学まで、事例報告や他の先生の研究のお手伝いを多少させていただいた程度で、自ら研究をしたことはなく、大学院に入り、初めて研究を始めました。「障害者の就労支援について、作業療法の役割を明らかにしたい」という思いはあるものの、それをどの様に研究という形にもつければよいか、思い悩む日々でした。時間だけはあつという間に過ぎ、焦りつつも研究計画は遅々として進まず・・・そんな折、「いきなり精神障害者の就労支援方法を考えるのではなく、当事者の就労に対する思いや不安に耳を傾け、真のニーズを明らかにすることが大切なのではないか」という指導教官の一言で、研究をすることばかりに気持ちが向いて、作業療法士として当事者に寄り添う姿勢という、最も大切なことを忘れるところだったと気付かせていただきました。そして研究のテーマを「精神障

メンタルヘルスについての研究を行っております。この研究で二〇二二年度の日本作業療法学会で優秀演題賞をいただくことができ、また二〇二二年度は日本学術振興会の科学研究費助成事業に採択されることができました。

今後も、だれもが生き生きと働けるために研究・教育活動に邁進していきたいと思えます。



優秀演題受賞時の様子（左から飯田助教、藤田准教授、新宮学部長・教授）

**略歴** 三重県四日市市出身。藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校作業療法専攻卒業。名古屋市内の精神科病院の主に入院作業療法に従事。作業療法室主任。二〇〇六年聖隷クリストファー大学の作業療法学科助手として勤務。現在に至る。聖隷クリストファー大学大学院博士課程修了。専門は精神科作業療法、障害者の就労支援、メンタルヘルスに関すること。



Recurrent education

# リカレント教育のご案内

聖隷クリストファー大学および大学院は、卒業生の皆さんが保健・医療・福祉・教育の専門職者として活躍し続けるために一層専門性を向上させ、最新の知識・技術を身につけていくことを支援しています。こちらで紹介している公開講座等は、ご興味があればどなたでもご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用ください。

こちらに掲載している内容は2024年9月時点の予定です。最新の情報は大学ホームページ「研究・地域連携」→「リカレント教育・勉強会」をご覧ください。  
(<https://www.seirei.ac.jp/cooperation/recurrent/>)



## 公開講座・セミナー

問い合わせ先: キャリア支援センター E-mail: [career@seirei.ac.jp](mailto:career@seirei.ac.jp)  
お申し込み先: 大学院ホームページよりお申し込みください。 <https://www.seirei.ac.jp/graduate>

## 米国におけるNPの役割から浜松の地域医療を考える

日時 9月19日(木) 19:00~20:30  
会場 アクトシティ浜松コンgresセンター 43+44会議室  
パネリスト

エクランド源稚子氏 (Pediatrix Medical Group of Tennessee 新生児専門NP 国際新生児看護学会理事 米国ナースプラクティショナー学会国際委員会副委員長)  
山本貴道氏 (聖隷三方原病院 病院長)  
岡 俊明氏 (聖隷浜松病院 院長)  
井上真智子氏 (浜松医科大学 地域家庭医療学講座 特任教授)

2024年4月、聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科は、博士前期課程にプライマリケア看護学領域(プライマリケアNP養成コース)を開設しました。  
これを記念して、当シンポジウムでは米国で豊富な実績を持つエクランド源稚子氏より話題提供をいただき、この浜松の地でNPがどのような役割を果たし、希望となり得るのかを考える機会とします。

## 研究の世界へ踏み出そう! 看護実践者・教育者のための研究入門講座

日時 11月30日(土) 13:00~16:00  
会場 聖隷クリストファー大学およびオンライン  
対象者 大学院進学を目指す方、研究に興味のある看護職の方  
定員 20名程度

大学院進学を視野に看護実践をされている看護職の方を対象に「研究的な視座を持つ臨床の実践者」「研究的な視座を持つ看護教育者」に必要な基礎的な研究のための公開講座を開催します。  
大学院での学びの中心となる研究に視点をおき、研究の芽の育て方、理論や倫理を踏まえた研究計画書を作成するプロセス、学会発表に必要なスキルなどより具体的な内容で研究に関する講座を企画します。

# 活躍する卒業生



静岡医療科学専門学校  
作業療法学科 教員  
作業療法士  
青柳 翔太さん

聖隷クリストファー大学大学院  
リハビリテーション科学研究科  
リハビリテーション科学専攻博士前期課程作業療法学分野修了  
リハビリテーション科学専攻博士後期課程作業療法学分野在学中

## 経歴

2015	2020	2022	2023	2024
3月 大学卒業	4月 大学院博士前期課程 進学	3月 修了	4月 現職	4月 大学院博士後期課程 進学 (在学中)
4月 病院就職				

## 医療者として自己研鑽を続け、 困った際に相談できる場所となれるよう努めていきたい

私は作業療法士として病院で勤務していたとき、脳梗塞や骨折により突然病院での生活を余儀なくされた患者さんたちの「早く帰りたい」という希望を多く聞いてきました。しかし、住み慣れた環境に戻れない方々も少なくありませんでした。こうした中で、作業療法士として、どのようなことができるのか、その人の人生の片棒を担いでいる責任感を感じながら、このまま良いのかという不安も感じていました。また、どのように生活の質(QOL)を向上させることができるかと感じながら働いていました。その中で、医療者は常に自己研鑽し、新しい知識を得ることの重要性を痛感していました。

学会に参加したことで、病院外の作業療法士とのつながりができ、自分の悩みを相談する場所が得られました。そこで「大学院に進んでみたら」というアドバイスを受け、進学を考慮するようになりました。大学院のセミナーに参加する中で、新しい知識を自ら学ぶことができると感じ、進学を決心しました。大学院では、ロールモデルとなる先輩や指導してくださる先生方から多くの指導を受けました。また、私生活では第二子の出産や子育てが重なりましたが、妻や職場の理解と協力もあって、無事に大学院を修了することができました。

大学院では、回復期リハビリテーション病棟の認知機能障害者のQOLに関連する要因を検証しました。臨床での疑問を解決するために、論文の調べ方や未解決の問題を自ら調査し、得られたデータを解析する手法を学びました。これにより、いくつかの疑問を解決することができました。

現在、私は静岡医療科学専門学校 校の作業療法学科の教員として勤務しています。授業以外にも、外部の作業療法士から相談を受けることが多くあり、一緒に研究を実施することがあります。私が大学院で学んだ「自ら新しい知識を求め、解決する手段」を、こういった機会でも活用できることがとても嬉しく思います。また、より多くの作業療法士にそれらを伝えるために、未来の作業療法士を育成することが大切だと考えています。そして、主体性のある作業療法士が増えることを期待しています。今後も医療者として自己研鑽を続け、困った際に相談できる場所となれるよう努めていきたいと思っています。





## 公開講座・セミナー

### ST公開講座 コミュニケーション／嚥下障害の評価・治療 Update

**会場** オンライン開催

**対象者** 本学卒業生、全国の言語聴覚士、関連職種、一般の方など公開講座受講を希望される方

#### ◇第1回【2024年10月12日(土)】

13:00～13:45 「ヒトが食べる時の大脳活動の可視化と特徴」 柴本 勇 (教授)

13:55～14:40 「障害のある子どものナラティブ(談話)の発達と支援」 大原 重洋 (教授)

#### ◇第2回【2024年11月30日(土)】

10:30～11:15 「発達性吃音の臨床一きこえとことばの相談室における経験一」 谷 哲夫 (教授)

11:25～12:10 「基礎訓練Update一舌骨上筋群の筋力強化訓練一」 佐藤 豊展 (准教授)

#### ◇第3回【2024年12月7日(土)】

10:30～11:15 「言語発達障害児の早期発見のためのツールの開発」 小坂 美鶴 (教授)

11:25～12:10 「ことばと認知: 顕在的処理と潜在的処理」 黒崎 芳子 (准教授)

言語聴覚障害の評価治療理論は年々発展しています。本講座では、本学の教員より最新の理論や技法を紹介します。医療・福祉・教育現場に携わるセラピストや教員の皆さんはもちろん、看護師や介護福祉士など様々な職種の方、また身近に障害を持った方がいらっしゃるなど、一般の方のご参加も可能です。

※詳細が決定次第、大学ホームページ等でご案内します。

### データベースを利用した研究に役立つ情報収集 入門編 (図書館データベース講習会)

**日時** 9月19日(木) 19:00～19:30、12月7日(土) 10:00～10:30

**会場** 聖隷クリストファー大学図書館

**対象者** 地域の保健医療福祉専門職の方

雑誌の論文・記事等を探することができるデータベースの利用方法についての講習会を企画しました。医中誌WebやCiNii Researchを中心に日本語データベースとその利用方法について図書館司書が説明します。ぜひご参加いただき、院内での研究や日頃の業務にお役にたください。講習会の日時や内容につきましては、ご希望に応じますのでお問合せください。問い合わせ先: 聖隷クリストファー大学図書館 TEL: 053-439-1416 E-mail: cl-library@seirei.ac.jp

## 関連学会

### 第15回 せいいい看護学会 学術集会

**テーマ** 看護の未来につなぐ、つなげる

**日時** 9月14日(土) 9:50～16:30

**会場** 聖隷浜松病院

**大会長** 村木ゆかり 氏 (医療法人社団三誠会 北斗わかば病院 看護部長)

【プログラム】

〈大会長講演〉「看護の未来につなぐ思い」

〈特別講演〉友納 理緒 氏 (参議院議員)

〈ランチョンセミナー〉「これからの日本の看護へのメッセージ」エクランド 源 稚子 氏、DNP APRN NNP-BC、FAANP、FAAN

〈シンポジウム〉〈ワークショップ〉〈交流集会〉〈一般演題〉

※詳細は学会ホームページをご確認ください。http://www.seirei-sons.com/index.html

### 聖隷クリストファー大学社会福祉学会シンポジウム2025

毎年3月にシンポジウムを開催しています。皆様のご参加をお待ちしております。

※詳細が決まり次第学会ホームページへ掲載します。 https://blg.seirei.ac.jp/shakaihukusi/



## 公開講座・セミナー

### 学校におけるこどもの「意見表明」の機会を考えよう!～「ルールメイキング」の取り組みから～

**日時** 12月7日(土) 13:30～16:00

**会場** 聖隷クリストファー大学およびオンライン

**対象者** こどもと家庭への支援者、学校関係者、中・高校生、大学生、関心のある一般の方

**定員** 200名

**講師** 藤本雅衣子 氏\* (認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング 事業責任者)

2023年4月に施行されたこども基本法に基づき、同年12月に「こども大綱」が閣議決定され、こども施策はこどもの権利条約に基づいた大きな転回点を迎えていると言えます。また、2024年4月からは、2022年改正児童福祉法の内容が実行段階に入っています。改正の中でも特に注目されるのは、一時保護や児童福祉施設に入所しているこどもの意見表明の仕組みづくりが求められていることです。こどもの意見表明権は「こどもの権利条約」に位置付けられている基本的な権利です。こうした背景の中で、こどもにとっての社会であり身近な場所である「学校」において、こどもの意見表明権を大切にす取り組みは、今後どのように実践されていくのでしょうか。

学校における「意見表明」の機会づくりの一つとして、校則の対話的な見直し「ルールメイキング」について知り、教員をはじめとする教育関係者だけでなく、保護者や地域住民の一人として、こどもの意見を聴く、こども中心の学校づくりのために、できることをともに考えましょう。

\*1993年生まれ 愛知県豊田市出身。大学卒業後、ベンチャー企業にて医療・介護人材の人材紹介派遣事業に従事。1000人以上の転職・キャリア面談を受ける中で、将来に意欲を持っていないことや、自身の生き方・働き方を自己決定することに難しさを抱える人の多さに課題を感じ、2021年5月よりカタリバへ転職し、みんなのルールメイキングに携わる。2024年4月より現職。また、東京都内の児童相談所にて「子どもアドボケート (意見表明等支援員)」として活動し、こどもの意見表明支援に取り組む。

### 研究初心者のための臨床研究入門

**日程** 12月開催予定

**対象者** リハビリテーション領域の研究に関心のあるリハビリテーション専門職の方

臨床に携わる専門職は、日々の患者さんの診療の中で、多くの疑問を持っていることと思います。また多くの臨床家が研究疑問の解決をめざして研究に取り組んでおられますが、実際に研究を始めようとなると、さまざまな課題や悩みが生じてくると思います。本講座では地域の実践現場で研究を進めようと考えておられるリハビリテーション専門職の方を対象に、研究への具体的手がかりを得られるプログラムを提供したいと思います。日常感じておられる疑問や課題解決の第一歩としてご利用いただければと思います。

### OT公開講座 作業療法学分野における研究法「超」入門

**日時** 10月30日(水) 18:30～20:00

**会場** 聖隷クリストファー大学およびオンライン

**対象者** リハビリテーション領域の研究に関心のあるリハビリテーション専門職の方

◇18:30-19:10 「質的分析: 対象者の語りから分析してみよう!」 鈴木達也 (准教授)

◇19:20-20:00 「教授量的分析: EZRでデータ分析をしてみよう! (\*)」 泉 良太 (教授)

\* 事前に下記サイトよりEZRをインストールしていただけますと、一緒に作業をすることができます (無料)

https://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html

臨床業務の中で、多くの疑問が生まれると思います。そのような時に、「その疑問をどのように形にしたらいいのか?」、「現在、手元にあるデータで何が分かるか?」等の悩みが生じてくると思います。本講座では、特に作業療法学分野での研究をもとに、それらの解決のヒントになるような講座を提供したいと思います。日常感じておられる疑問や課題解決のはじめの一歩としてご利用いただければと思います。1時間半という短時間ですので、お気軽に受講ください。



## 勉強会・研究会

臨床や福祉実践の中で生じた課題・疑問について仲間と共有し、学び直し、スキルアップを目指してみませんか？

問い合わせ・参加については、大学ホームページ「研究・地域連携」→「リカレント教育・勉強会」をご覧ください。 <https://www.seirei.ac.jp/cooperation/recurrent/>



## 聖隷CNS事例検討会

開催日時 年4回(6・9・12・3月)

会場 聖隷クリストファー大学

本学大学院看護学研究科博士前期課程CNSコースを修了し、現在活躍中のCNSや、CNSを目指す院生等が集い、複雑な問題を抱える患者・家族への看護介入事例の検討を通して、看護実践力のブラッシュアップに励んでいます。本会の構成メンバーの多くはがん看護CNSですが、小児看護CNS、慢性疾患看護CNS、急性・重症患者看護CNS、老人看護CNSなど、他分野のCNSも参加しています。CNSを目指したい、とお考えの看護師の皆様、事例検討会に参加してみませんか。

## 静岡県精神科作業療法研究会 西部地区勉強会

開催日時 奇数月の第3金曜日(原則) 19:00～21:00

西部地区に勤務する精神科作業療法士を中心に、実践報告や情報交換の場として、2008年6月より開始。プログラムの紹介や困難事例の検討など、新人からベテランまで、精神保健福祉士や看護師の参加もあります。

## 浜松QOL研究室

開催日時 1回/月(19:00頃から1.0～1.5時間程度) 会場 聖隷クリストファー大学, オンライン(Zoom)

作業療法の対象となる方々の、生活の質(QOL)についての研究をしています。具体的には、作業療法をはじめとするリハビリテーション介入がQOLに及ぼす影響や、対象者のQOLを適切にあらわすことができる評価尺度の検証です。

## 聖隷社協会

社会福祉協議会は全国の各都道府県、各市町村に1か所設置されている地域福祉推進の中核的な役割を担う民間組織で、「地域共生社会」構築が叫ばれるなか、ますますその活躍が期待されています。本会は、主に静岡県内の社会福祉協議会で「社協マン・社協ウーマン」として頑張っている卒業生による勉強会を定期的に開催し、同窓生だからこそ気軽に仕事のことを相談し合えるような「より所」になることを目指しています。

## 浜松子ども臨床事例検討会

医療、保健、福祉、教育、法律等の領域で子どもの支援を行っている方々が、事例検討等を通して学び合う会です。子どもの事例は、ひとつの機関だけで支援が完結できにくくなっています。他機関との連携には、他の支援機関の特徴や限界を知っておく必要があります。また、多職種の視点から学び合うことはケースの多面的理解につながり、支援の幅と質を高めます。支援困難ケースをお持ちの方や臨床力を伸ばしたいと意欲される方、さらには連携によるネットワークづくりを目指している方はぜひ参加してみませんか。

※開催日時や場所につきましては、HPをご覧ください。<https://www.npo-platform.com/>

## その他

### 聖隷クリストファー英会話スクール

聖隷学園では地域の皆さまの生涯学習の貢献を目的として英会話スクールを35年以上開講しており、今まで約1,300名以上の方が受講されました。高校生からシニアまで幅広い年代の方が在籍しています。英会話がもう少しできたらと考えている方、楽しいレッスンで会話能力を高めてみませんか？本スクールはご都合やレベルに合わせて5クラス開講しています。レッスンの場所は聖隷クリストファー大学5号館です。クラスや講師、年間スケジュール等の詳細につきましてはHPにてご確認ください。

お問い合わせ先 聖隷学園 法人事務局 TEL:053-436-5311

## 関連学会

### 第10回 聖隷クリストファー・リハビリテーション学会学術大会

テーマ 症例と学術の探求～療法士の『働く』を豊かにする～

日時 2025年3月8日(土)10:55～16:25(予定)

会場 聖隷クリストファー大学

プログラム 〈第10回大会企画〉〈基調講演〉〈ケーススタディ〉

※テーマは変更になる場合があります。

※詳細は学会ホームページをご確認ください。<https://www.scsrs.sakura.ne.jp/>



### 第2回 聖隷国際教育学会 年次大会

テーマ これからの“学”の話をみんなでしよう!

日時 2024年8月24日(土)10:00～17:00

会場 聖隷クリストファー小学校、中・高等学校

プログラム 〈口頭発表〉〈卒業生交流会〉〈総会〉〈記念講演会:「社会の変化とこれからの教育～主体性と当事者意識～」工藤勇一氏(教育再生実行会議委員、経済産業省「EdTech」委員)〉〈ティーパーティー(会員交流会)〉

※詳細は学会ホームページをご確認ください。 <https://blg.seirei.ac.jp/kokusaigakkai/>



## 同窓会主催セミナー

### 社会福祉領域 スマホ時代の“つ”のつく間の子育て

日時 2025年2月15日(土)10:00～11:30

会場 聖隷クリストファー大学 および オンライン

講師 鈴木光男(国際教育学部 教授)

対象者 同窓会および一般の方

定員 50名(予定)



スマホの登場により私たちの生活は一変しました。便利である反面、その影響は子供たちにも当然及んでいます。こうしたスマホ時代にあって、とりわけ“つ”のつく間(0歳から9歳まで)の子育てや保育・教育はどのようなことが重要になるのでしょうか。

最近のいじめや不登校の爆発的な増加、少子化にもかかわらず発達支援の必要な子供たちが増加するなど、現代の子供や若者に見られる様々な課題や問題を見据え、これから訪れる予測不可能な時代を人間として生き抜く力を、ダイバーシティやインクルーシブ、イノベーションなどもキーワードにして、みなさんと改めて考え、話し合いたいと思います。

### 看護領域 「気持ちよく出すこと」を叶える排泄ケア

日時 2025年2月15日(土)13:30～15:00

会場 聖隷クリストファー大学 および オンライン

講師 内藤智義(看護学部 准教授)

対象者 同窓会および一般の方

定員 50名(予定)

医療・介護の現場での排泄ケアでは、「排泄管理」「排泄コントロール」という言葉が当たり前のように飛び交い、ケア提供者の都合が優先されているのが実情です。例えば、訪問看護では「便出し日」という言葉、施設や病院では「3日間便が出なければ下剤を使用する」というルールなどです。

今、目の前で行われている排泄ケアが、将来の私たちに行われる排泄ケアです。はたして本当に現在のケアが最善といえるでしょうか？本セミナーでは、私の研究テーマである認知症高齢者の慢性便秘マネジメントを中心に、「本人が気持ちよく出すことを叶える排泄ケア」のためにどうしたらよいかを、皆様と一緒に考えるきっかけにしていきたいと考えています。

### リハビリテーション領域 リハビリテーション専門職における症例・事例報告の重要性

日時 2025年3月8日(土)13:00～14:30

会場 聖隷クリストファー大学

講師 石垣智也氏(名古屋学院大学)

対象者 同窓会および一般の方

定員 100名(予定)



## 満足度調査の結果をうけて学修環境の整備に取り組んでいます。

### 学修環境整備

#### 1号館教室内の机や椅子の大型化推進

1号館教室の机が従来型で小さく、「パソコンと教科書を同時に開けない」、「椅子が小さく硬いので、変えてほしい」という要望が、学生満足度調査で多く寄せられていました。これらの要望を受け、この度、該当教室の机と椅子をリニューアルいたしました。机の天板は、横幅10cm、縦幅5cm増と一回り大きいものを配置し、椅子もクッション付きの、より大きく快適なものを選定しています。



### 父母等保証人を対象とした満足度調査結果

2023年度父母等保証人満足度調査にご回答いただき、誠にありがとうございました。

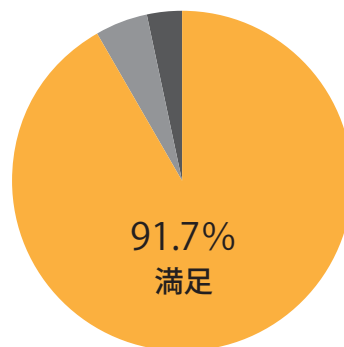
本学に対する総合評価では、回答いただいた方の91.7%から高い評価をいただきました。一方で、ご意見・ご要望もお寄せいただきました。

皆様からの声を真摯に受け止め、今後もよりよい教育を目指して取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

#### 本学に対する総合評価 (進学させてよかったかどうか)

	大学	専門	助産	合計	%
総数	842	20	14	876	
満足している やや満足している	769	20	14	803	91.7%
満足していない あまり満足していない	44	0	0	44	5.0%
わからない	29	0	0	29	3.3%

[実施時期] 2023年12月下旬~2024年1月21日締切  
[実施方法] 調査の案内を郵送、Webで回答  
[調査対象] 全学部学科、助産学専攻科および介護福祉専門学校  
の父母等保証人 計1,460名  
[回答率] 60.0% (876名)



本学に対する総合評価

学報 第62号  
2024年8月発行

発行者／聖隷クリストファー大学 <https://www.seirei.ac.jp>  
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 <https://www.seirei.ac.jp/carework>  
〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町 3453 TEL:053-439-1400 FAX:053-439-1406